

努力賞

六十五才のじじとぼく

荒川区立汐入小学校 三年

古橋 そう人

やなぎ田先生こんにちは。やなぎ田先生は、お風ろに入った時「ごくらくごくらく」と言ってしまふことは、ありますか。ぼくは、「おじいちゃんのごくらくごくらく」と言うすてきな本と出会いました。

ぼくとゆうたくんは、にています。ぼくには、六十五才のおじさんがいます。「おじいちゃん」ではなく、「じじ」とよんでいます。

家は近所で、じじは、い酒屋さんのお仕ごをしています。この間のおぼん休みに、家ぞくでじじのお店に食べに行った時、お店にない特別なメ

ニューを作って出してくれました。お客さんのぼくを見て、じじは、とてもうれしそうな顔をしていました。

じじは、ぼくがようち園の年中のころ、おべん当のない日におむかえに来てくれました。そして、毎週土曜日はじじの家におとまりするようになりました。ゆうたくんと同じように、お風ろに入ったり、ごはんをいっしょに食べて、ゲームであそんだりもします。夏は暑いからシャワーだけど、寒くなると湯船で温まります。

ゆうたくんのおじいちゃんは、口ぐせのように、お風ろの中で『ごくらくごくらく』と言います。『ごくらく』とは、幸せな気持ちになることだそうです。

おじいちゃんの入院する前の日が、ゆうたくん

にとっていっしょにすごすさい後の日だったのでした。なぜなら、おじいちゃんは、ほとけさまの国へ行ってしまったからです。

ぼくのじじは、今も元氣にくらしています。大きくなっても、じじの家におとまりしたいです。そして、じじのお店のおそうじや、後かたづけのお手伝いをして、じじを楽させてあげたいです。とこ屋さんに行ったり、えい画を見に行ったり、おいしい物を食べたり、これから二人で一しょにいられる時間を大切に、今を大じにすごしていこうと思います。